

まちのせんせい 養成活用事業

自治体情報

人 □ 243,351 人

標準財政規模 40,001,539 千円

担当課 大阪府 寝屋川市 教育委員会 社会教育部地域教育振興課

電話 072-838-0065

ホームページ <http://www.city.neyagawa.osaka.jp/>

事業期間 平成 21 年度から

参考とした施策

関係施策分類

施策の概要

1 取り組みに至る背景

本市ではこれまで、生涯学習施設関連事業において地域人材を講師として活用を図ってきた。昨今、市民の参画意識の高まりや団塊の世代が定年を迎え、様々な知識や技術を持った方々が地域に戻っているなど、より多くの地域人材が潜在していると考えた。

こうした人的資源を効果的に、また全市的に活用できる人材バンクの構築検討を始め、「まちのせんせいバンク」を設置した。



2 事業内容（目的・目標・方策）

「まちのせんせい養成講習会」の開催

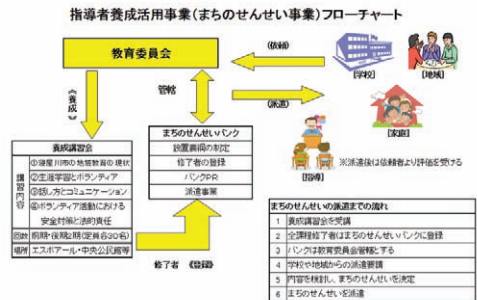
これまでにない新たな枠組みで、地域人材を生涯学習に限らず、学校・家庭・地域の様々な学習機会において活用できる「まちのせんせい」として養成し、「まちのせんせいバンク」に登録の上、派遣依頼に基づき講師を派遣する制度とした。市民の学習機会・内容の充実を図るとともに、講師を担う市民にとっても「まちのせんせい」の認定を受けることにより、生きがいを見だし、活力ある充実した生活を送ることなどを目的とするものである。教育委員会が指定する講座（①寝屋川市の地域教育の現状について ②生涯学習とボランティア ③話し方とコミュニケーション、④ボランティア活動における安全対策と法的責任）を受講した者を「まちのせんせい」と認定し、「まちのせんせいバンク」に登録、自己の得意な技術や知識を活かし、市域における派遣事業の推進を図る。毎年、50名の「まちのせんせい」を養成し、学校・家庭・地域への支援体制を確立し、市域における積極的なPRに努めていく。

3 施策の開始前に想定した事業効果

現在、学校支援地域本部や放課後子ども教室において、指導者を探すことが大きな課題となっているが、教育委員会で人材を養成し、バンクを持つことで様々な事業に対し、市民協働・参画の推進がなされることが期待できる。

4 導入にあたり工夫・苦労した点、課題、対処法など

「まちのせんせい」は、交通費等の実費弁償を除き、基本的には無償ボランティアとして活動いただくが、今後、報償費等の措置が問題になる可能性がある。派遣依頼者に財政的な負担を強いることが難しい状況であることから、派遣依頼者に負担が生じないような仕組みづくりが大きな課題である。また、いかに「まちのせんせい」が市域において認知され、その活用等をPRしていけるかも大きな課題である。



5 現在の成果・実績、今後の展開など

平成 21 年 7 月第 1 期まちのせんせい養成講習会への参加申込者は定員を超えた。指導経験のない人が大半であるが、何か自分のスキルを活かして社会貢献或いは個人の生きがいを見出したいとの市民の思いに応える取組となっている。

今後は、

- ・「まちのせんせい」が自ら具体的な指導プログラムを作成できるように資質の向上を図る。
- ・「まちのせんせい」を積極的に活用するため、指導内容等をパンフレットとしてまとめ、関係機関等に積極的にPRを進めていく。
- ・第 2 期養成講習会は夜間に実施する予定であり、第 1 期とは異なる層のより幅広い年代や、多岐にわたる分野、異なる活動時間帯の「まちのせんせい」の確保を図っていく。
- ・本事業については、「まちのせんせい」による生涯学習の普及推進のみならず、市民というマンパワーの活用に加え、市民の生きがいを見出すことのできる事業として積極的な展開をめざす。

予算関連データ 寝屋川市

総額 ①～⑤の計		財源内訳(財源区分:①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
285千円		0千円	0千円	0千円	0千円	285千円
①～④の名称・所管等	名称					
	所管					
	金額					
	補助率					